

# 計算書類チェック表 (〇〇法人)

【注】 エクセルで「計算式」があるので(数値投入の際に), 計算式のない欄に数値を投入のこと。

<b>1 貸借対照表</b>	
「資産」の部合計	186,942,656

「負債」の部合計	48,212,376
「純資産」の部合計	138,730,280
「負債の部合計」+「純資産の部合計」	186,942,656

ok

<b>2 資金収支計算書</b>	
当期末 支払資金残高	
計算書の最下段	17,713,066

<b>貸借対照表</b>		
流動「資産」の合計 ①	22,653,567	
1年基準による流動資産 ②	0	
徴収不能引当金 ③	0	
棚卸資産(貯蔵品を除く) ④	0	
流動「負債」の合計 ⑤	13,250,001	
1年基準による流動負債 ⑥	4,966,500	
引当金 ⑦	3,343,000	17,713,066

①-②+③-④-⑤+⑥+⑦

ok

<b>貸借対照表</b>		
現金預金	11,146,990	
■会計年度末の現金(小口現金)	58,465	検査当日確認
■会計年度末の預金(口座通帳)	11,088,525	

ok

<b>預貯金残高証明書</b>	41,088,525	
■普通預金(積立)流動資産 *現金以外	11,088,525	検査当日確認
■特定預金(特定積立)其他固定資産	30,000,000	

ok

<b>3 貸借対照表</b>	
設備資金 借入金の「増減」欄	0
「負債の部」(固定負債)設備資金借入金...「増減」欄	
(1年以内:設備資金借入金:増減)	0

<b>資金収支計算書</b>	
(施設整備等 資金収支)	0
設備資金(借入金収入)	0
設備資金(借入金償還支出)	0

ok

<b>4 貸借対照表</b>	
次期繰越活動 増減差額	59,931,656
純資産の部(次期...)	

<b>事業活動計算書</b>	
次期繰越活動 増減差額	59,931,656
(17=13+14+15-16)...最下段	

ok

<b>5 貸借対照表</b>	
うち当期繰越活動 増減差額	4,958,495
「純資産の部」(次期...の内数)	

<b>事業活動計算書</b>	
当期活動 増減差額	4,958,495
(11=7+10)...「経常増減差額」+「特別増減差額」	

ok

<b>6 貸借対照表</b>	<法人全体>
「資産」の部合計	1,277,280,662
「負債」の部合計	771,379,344

<b>財産目録</b>	<法人全体>
「資産合計」	1,277,280,662
「負債合計」	771,379,344

検査当日確認

ok

ok

<確認:「財産目録」=貸借対照表の各科目>

<b>7 貸借対照表</b>	
「資産」の部(積立資産)	0

<b>貸借対照表</b>	
「純資産」の部(積立金)	0
注:「国庫補助金等 特別積立金」は別	

ok

◆【各積立金を, 積立の目的を示す名称とし, また, 同額の積立資産を計上しているか →例:人件費積立金, 施設整備積立金, 修繕費積立金 等】

<b>8 貸借対照表</b>	
国庫補助金等 特別積立金「増減」	△ 3,238,633
「純資産の部」→(「その他の積立金」の上)...「増減」欄	

<b>事業活動計算書</b>	
一 国庫補助金等 特別積立金「取崩額」	△ 3,238,633
十 国庫補助金等 特別積立金「積立額」	0
(<サービス増減の部「費用」国庫:取崩額>, <特別増減の部「費用」国庫:積立額>)	

ok

<b>9 事業活動計算書</b>	
前期 繰越活動 増減差額	54,973,161
(「繰越活動増減差額の部」...最上段 (12))	

<b>事業活動計算書</b>	
前年度の次期繰越活動 増減差額	54,973,161
(「繰越活動増減差額の部」...最下段 (17)) 「前年度決算」欄	

ok

<b>10 事業活動計算書</b>	
減価償却費	5,437,683
(<サービス増減の部「費用」>)	

<b>固定資産台帳</b>	
当期 減価償却額	5,437,683
(「固定資産」合計)	

検査当日確認

ok

◆【資産(土地購入、施設の増改築、備品等の購入)の増加による資産の管理は適切か →「固定資産台帳」との整合性を確認 等】

◆【固定資産台帳(明細書)の「当期増加額」における「備品」等について, 会計手続きは適切か →随意契約及び支出手続きを, 稟議書で確認 等】

◆【資金収支計算書の「業務委託費支出」, 事業活動計算書の「業務委託費(支出)」は, 適切な支出手続きか →契約書単価と支出伝票の確認 等】